

井の国歴史懇話会報

VOL. 6

発行：井の国歴史懇話会事務局 発行日 平成26年4月1日



ご挨拶

井の国懇話会 会長
武藤全裕



陽春の候を迎えました。会員の皆様にはご清祥のことと拝察いたします。

さて、平成26年度当会の活動の柱として、井伊直政と深く関係する徳川家康の歴史探訪を置きます。

家康が今川の人質から解き放たれ独立していく足跡を探訪します。岡崎の郷土史研究家・市橋章男先生をお迎えしての講演会、さらに先生のガイドで、桶狭間の戦いで家康が兵糧を運び込んだ大高砦方面の現地研修を計画しています。

この5月中旬にNHKの番組で水曜日夜10時に放映される「歴史秘話ヒストリア」に、井伊家22代井伊直盛の娘、次郎法師が登場いたします。幼い直政の後

見人として直政をたすけ、井伊直虎の名前で、女性地頭として3年間井伊谷を統治した人物です。龍潭寺にとりましても興味深い番組です。この次郎法師の学習も計画しています。

今回会員の皆様に、静岡文化財団から発行された「湖(あわうみ)の雄 井伊氏」(辰巳和弘、小和田哲男、八木洋行)を贈呈いたします。井伊谷の歴史を紐解くこの会にとって最適な本となります。是非熟読いただき歴史を学びましょう。本年もよろしくお願い申し上げます。

現地研修報告 事務局

2月15日、バレンタインデーの翌日は涅槃会です。前日からの大雨で開催に迷いましたが、最初の報恩寺に着く頃には西の空に大きな虹が架かり、将に涅槃日よりとなりました。

「お釈迦様の入滅」を涅槃会と言いますが、この地方では一般の人に公開されている寺院は数少ないのが実情です。

今回の「湖北の涅槃図の拝観ツアー」では三寺とも住職などによる読経から始まり、井の国懇話会らしさを実感しました。

最初の報恩寺の涅槃図は220年ほど前の寛政年間に龍潭寺が新たな涅槃図を整えたため「茶事」のお土産に送られた物です。極彩色の涅槃図は旧暦の二番目の月の満月の日に亡くなったとの言い伝により1頭上北洲脚下南 2満月 3摩耶夫人 4沙羅双樹 5鉢袋 6御仏 7仏弟子 8在家 9老女 10動物など定形の諸物が描かれていました。涅槃会のために立派な御膳が準備され、お釈迦様が大事にされていることが実感できました。

なおこの報恩寺では浜松でも最古の石塔(鎌倉後期)に属する完形の五輪塔があり、山門は商家の長屋門を移築したもので、寺院としては珍しい形です。

次の庚申寺では風格のある涅槃図を拝観。ネズミがかじり沙羅双樹が霞の様に見えたことは残念な事です。動物の絵の中に「猫」が描かれていたら、このような被害に遭わなかったかも知れません。こちらの涅槃絵はコンパクトに纏まっていますが、お釈迦様を取り巻く人物がクローズアップされ、嘆き悲しむ姿が生々しく印象深いです。

なお庚申寺には、近藤家の彦九郎氏が寄進したという鐘楼が残っていました。浜松市の重要文化財の二四孝の絵馬を本堂内で見学。庚申堂の絵馬はレプリカであることを初めて知った次第です。

最後は龍洞院。小型のバスで入っていくのが難しい



細い道の中に突然現れた流麗な寺院でした。龍洞院は金指近藤家の初代近藤登助季用の菩提寺で、窓越にお墓を参拝。金指近藤家はこの後江戸在住となるため菩提寺は東京になります。2ヶ寺同様読経・拝観、涅槃図は美しい人物像ですが、こちらもネズミがいたずらをしています。ネズミはお釈迦様のお使いと言いますが…

3ヶ寺とも茶菓の接待を受け、ありがたくも嬉しい午前中を過ごし、午後からは龍潭寺で檀家さんと同じ扱いで、涅槃会に参加させていただきました。

龍潭寺の涅槃図

武藤宗甫

寛政四年(1792)に書かれた「紺紙金泥」の涅槃図、筆者は月暲藤文謹写とあります。大きさは横3m、縦mほどの大きさで、紺地に細い金筆で詳細に書かれ、龍潭寺の巻物の中でも一番の大きさです。



第14世仲山全甫和尚の代に手に入れたようです。現在の庫裡、総門の建て替え、宗良親王の墓地も再建した和尚様です。この頃宮口から報恩寺の和尚が訪れ、その土産に古い彩色の涅槃図を譲ったといわれています。

この涅槃図には、お釈迦様がお年をめされ御自分で最期を覚悟し、最後の説法をし、灯を私の教えとして修業しなさいとおっしゃった(自灯明、法灯明)の教えから、金棺に御遺体を納め運ぼうとしたが動かず、大きな力士を呼んでも動かすことができなかつた話。白檀の木でこの金棺を茶毘に臥し、仏舎利としてツボの中の納めた姿、カピラの城(最後の城)から去っていく姿まで描かれています。

この大きな涅槃図からは、お釈迦様の偉大さはもちろん、お母様マヤ夫人の投薬が枝にかかって届かなかった愛情、弟子たちの悲嘆さ、語りつくせないほどの無常観を描いた縮図と言えると思います。

龍潭寺宝物紹介

井伊家よりいただいた赤備具足。彦根藩の朱具足の起こりは、天正十一年(1583)徳川家康の関東入部後、徳川に帰服した甲州武田の遺臣七十人(一説には七十四人)を直政に配属したところから始まります。『甲陽軍艦』には、家康が武田遺臣を与えるに際し、武田の家老山縣昌景にならぬようにと、山縣隊の用いた赤備えを直政に許したと伝わります。直政が赤備えを最初に用いたのは、翌天正十二年、長久手の戦いです。



井伊家伝来赤備具足

本年3月より6月15日「浜名湖花博2014」に合わせ展示をいたします。

26年度の予定 (敬称略)

4月23日(水) 13:30

- ・総会
- ・講話「家康公の自立と三河平定」
講師 市橋章男

5月21日(水)

- 現地研修 「龍潭寺閑栖師と巡る旅」
講師 武藤全裕・市橋章男

7:30 龍潭寺集合 ～大高城～桶狭間～
岡崎城～築山御前の墓～

会費¥6,000 先着25人まで

10月23日(木)

- 講話 「家康公と井伊直政」
講師 武藤全裕 & 会員発表

1月22日(木)

- 講話「山深き里に香る文化の流れ」
～寺野伊藤一族の伝説…涅槃図と能面～

2月14日(土)

- 「龍潭寺住職と歴史にふれる旅④」
現地研修 涅槃図と渋川井伊氏の史跡拝観ツアー